

平成25年7月30日

日清製粉グループ 第1四半期連結決算、通期連結業績予想

第1四半期は売上高1,180億78百万円、経常利益66億77百万円。

[平成26年3月期第1四半期連結決算]

(株)日清製粉グループ本社(社長 大枝 宏之)の平成26年3月期第1四半期につきましては、政府の経済・金融対策等により、一部には景気回復の兆しが見られましたが、円安による輸入原材料価格の上昇や電力料金の値上げ、消費者の低価格志向の継続等、当社を取り巻く環境は依然として厳しいものとなりました。このような中、当社はトップライン(売上高)の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略とする中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」の取組みを加速し、各事業において積極的な販売促進施策を推進するとともに、海外展開においても本年6月にベトナムのホーチミン市近郊に現地法人を設立し、平成26年秋の稼働予定で調理加工食品の生産工場を建設することを決定しました。なお、本年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で9.7%引き上げられたことを受け、製品価格の改定を実施しました。

この結果、第1四半期の業績は、売上高は製粉事業及び食品事業の出荷増に加え、M&Aにより取得した海外子会社の連結効果等により1,180億78百万円(前年同期比106.6%)となりました。利益面では、出荷増及び全社的なコスト削減の取組みに加え製粉事業においてふすま価格が堅調に推移したことにより、営業利益は54億74百万円(前年同期比106.2%)、経常利益は66億77百万円(前年同期比106.3%)、四半期純利益は42億21百万円(前年同期比109.0%)となりました。

[平成26年3月期通期連結業績予想]

我が国経済は、デフレ脱却へ向けた政策効果等への期待から、一部には明るい兆しも見られますが、一方で、円安を背景とした原材料価格の上昇、及び電力料金の値上げ等のコスト上昇要因、また、平成26年4月に予定される消費増税等、当社グループを取り巻く環境は引き続き厳しいことが予想されます。このような状況におきましても、当社は各事業において安全・安心な製品を安定的に供給するとともに、トップライン(売上高)の拡大と海外事業の拡大に向けて中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」で策定した戦略施策を積極的に実行してまいります。

以上の結果、当年度の業績見通しにつきましては、当初の予想を据え置き、売上高は4,900億円(前期比107.6%)、営業利益は237億円(前期比109.0%)、経常利益は263億円(前期比106.3%)、当期純利益は160億円(前期比116.9%)としております。

以上